

■12月27日

関空、LCC専用第3ターミナル、受け入れ人数倍増800万人へ、2016年度完成を目指す

新関西国際空港会社は26日、関西国際空港に新たに建設するLCC専用の第3ターミナルの概要を発表した。昨年10月から利用している第2ターミナルは国内線専用に改修。第3ターミナルを国際線に振り向け、2016年度の完成を目指す。

また、運用中の第2ターミナルと合わせ、LCC旅客の受け入れ能力を現在の2倍の年800万人に引き上げる。加えて、中・大型機が乗り入れる駐機場を6カ所つくる。

第2の改修と第3の新設などによる総事業費は約120億円の見込み。ピーチ・アビエーションは保有する飛行機を現在の11機から15年末までに17機に増やす方針で、第3でもピーチの増便を優先する。第3に保有できる飛行機は小型機で11機分、第2の9機分(小型機)と合わせて20機が駐機できる。これで他のLCCの新規就航や増便に対応できるようにした。第2と第3を合わせた年間旅客は800万人を見込む。

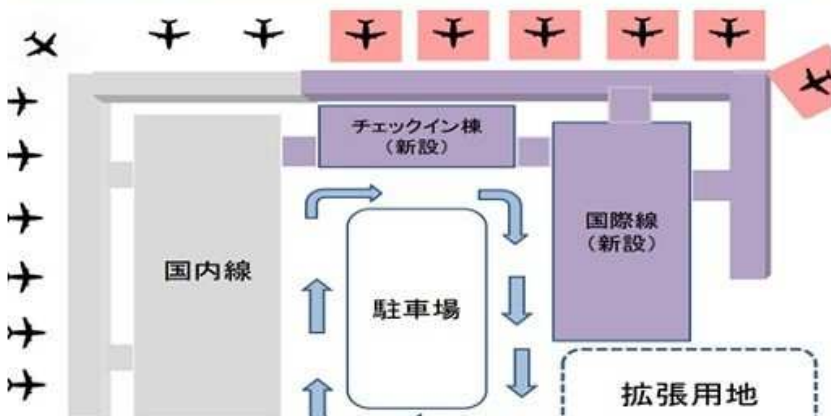
(日経)12/26

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDF2600T_W3A221C1EE8000/ (->http://www.nikkei.com/article/DGXNASDF2600T_W3A221C1EE8000/)

(毎日新聞)12/26

<http://mainichi.jp/select/news/20131226k0000e020286000c.html> (-><http://mainichi.jp/select/news/20131226k0000e020286000c.html>)

(新関西空社) プレスリリース)12/26

<http://www.nkiac.co.jp/news/2013/1867/lcct3.pdf> (-> <http://www.nkiac.co.jp/news/2013/1867/lcct3.pdf>)**PEACH(LCC)、4-11月、平均搭乗率84%、前年同期比より6ポイント増加**

ピーチ・アビエーションの井上慎一・最高経営責任者(CEO)は26日、今年4～11月の平均搭乗率が、前年同期から6ポイント伸び、約84%だったことを明らかにした。また、第2の拠点と位置付ける那覇空港から、早ければ2014年中にも東南アジアへ旅客便を飛ばすことにも意欲を示した。

4月に就航した関空—仙台線の搭乗率が90%弱となるなど、新路線の好調が全体をけん引した。定刻から15分以内に出発できたかどうかを示す「定時出発率」は86%で6ポイント改善。欠航率は0.02%だった。また、ピーチは就航先を片道4時間圏内としており、那覇空港をアジアへの窓口として位置付けている。日経によると井上CEOは「日本政府による東南アジア向け査証(ビザ)発給要件の緩和で旅客の増加が見込まれる」とし、「早ければ14年中にベトナムやタイと結ぶ路線を開設したい」と語った。

(日経)12/26

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD260MV_W3A221C1TJ2000/ \(->](http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD260MV_W3A221C1TJ2000/)

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD260MV_W3A221C1TJ2000/\)](http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD260MV_W3A221C1TJ2000/)

春秋航空、5年間で機体20機、投資会社も発表

春秋航空日本は26日、成田空港で記者会見と機体・制服・機内サービスの発表会を開催した。

機材はボーイング737-800(座席数189席)を用いる。白をベースにイメージカラーの緑を組み合わせた。また客室乗務員の制服は黄緑色を基調とし、清楚さや優しさを打ち出した。デザインは、全国の服飾関連の学校の学生386人から公募し、優秀賞5人の作品を合作した。

同社は、資本金を設立時の15億円から60億円に増資した。また、初めて出資者を明らかにした。中国の春秋航空が33%、日本の投資ファンドである(株)スカイスターファイナンシャルマネジメントが31%、パチスロの山佐(株)が25%、アイビスLCC投資事業組合が6%、春秋航空日本投資事業有限責任組合が3%、SMBCベンチャーキャピタル一号投資事業有限責任組合が2%の株主構成だ。

会見の場で鶴飼博社長は「5年間で20機体制を確立する」と明言。初号機を今年4月に、2号機今月受領しており、14年3月に3号機を受領し、就航時の5月末時点で3機体制とする。また、14年は3号機を含む3機を受領し、15年から17年にかけては毎年5機ずつ導入していく。就航5年目の17年に20機体制となり、全機がオペレーティング・リースでの導入を予定している。

拠点は、成田空港第2ターミナルとし2014年5月末に佐賀、高松、広島を結ぶ路線開設を行い、1日2往復運航する予定。設立母体となっている春秋航空が上海—佐賀、高松を結ぶ路線を持っており、これらの都市を乗り継ぎ拠点として首都圏に利用客を運ぶ。

日刊航空によると、春秋航空日本は、今後、成田空港からの国際線進出を計画しており、王会長によると、「春秋航空・中国が、上海からの旅客を日本各地へ運ぶ一方、春秋航空・日本は、日本から中国の各地方へ結んでいく」とした。「中国人の日本旅行者のリピーター率は高い。日本に憧れる人が多数いる」と説明した

(日経)12/26

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD260P3_W3A221C1TJ0000/ \(->](http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD260P3_W3A221C1TJ0000/)

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD260P3_W3A221C1TJ0000/\)](http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD260P3_W3A221C1TJ0000/)

(日刊航空)12/27

[http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm \(-> http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm\)](http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm)

(aviationwire)12/26

[http://www.aviationwire.jp/archives/30352 \(-> http://www.aviationwire.jp/archives/30352\)](http://www.aviationwire.jp/archives/30352)

(産経ニュース)12/26

[http://sankei.jp.msn.com/economy/news/131226/biz13122617090011-n1.htm \(->](http://sankei.jp.msn.com/economy/news/131226/biz13122617090011-n1.htm)

[http://sankei.jp.msn.com/economy/news/131226/biz13122617090011-n1.htm\)](http://sankei.jp.msn.com/economy/news/131226/biz13122617090011-n1.htm)

全日空、パイロット乗務60時間体制へ 労組と最終調整

全日空はパイロットの月間乗務時間を延長する。現行の平均55時間から約5時間引き上げることで労働組合と最終調整に入った。日経が報じた。

同社は、懸案だった60時間体制の実現に向け舵を切った。夏休みの実質的廃止などが施策の柱となる。

(日経)12/27

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO64638170X21C13A2TJ1000/> (->

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO64638170X21C13A2TJ1000/>)

HAC、実質3600万円の黒字、2013年9月中間決算

(読売新聞によると)

北海道エアシステム(HAC)は26日、2013年9月中間決算の経常利益が前年同期比1億4400万円改善したと発表した。1100万円の赤字となっているが、年度末には国などから上半期の離島運航費補助金(4800万円分)が見込まれるため、HACは9月中間決算では実質的に3600万円の黒字で、計画値(2500万円の経常黒字)を上回って3年ぶりに黒字転換を果たせるとしている。

同社によると売上高に相当する事業収入は11億9500万円で、前年同期比で1億3800万円増加した。欠航便が減少して就航率が99・0%と高水準をキープできたことや、7月から丘珠—三沢線が新規開設され、日本航空との共同運航(コードシェア)便もスタートしたためだ。欠航便が減少して整備コストが抑えられたため、営業費用も12億300万円と、前年同期から1300万円減少した。なお、9月末時点の債務超過額は約1億2700万円で、今年3月末時点より1100万円増えた。

(読売新聞)12/27

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/hokkaido/news/20131227-OYT8T00001.htm> (-> <http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/hokkaido/news/20131227-OYT8T00001.htm>)

(日刊航空)12/27

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1227-05.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1227-05.pdf>)

(->) 全日空、青森—伊丹線、青森—新千歳線、2014年上期に開設

全日空は26日、青森—大阪(伊丹)線と青森—札幌線の2路線を2014年度上期に開設することを明らかにした。同社が青森空港に乗り入れるのは11年ぶりとなる。ボンバルディア使って(74席)、いずれの路線でも1日2往復以上の運航を検討している。採算ラインは利用率60%を目指す。

就航日や詳しい便数やダイヤは来月にも公表する。新千歳—青森では現在、日航が1日3往復運航している。ビジネス需要が堅調で、12年度の平均利用率は71・5%と高い搭乗率を維持している。

全日空は女満別、中標津などと新千歳を結ぶ道内路線で同型機を使用しており、機材を有効活用する狙いもあるようだ。

河北新報によると、全日空の藤村上席執行役員は「統計を見て採算が取れると判断した。既存路線で便数を増やしても需要を取り込めないため、新しい路線で需要を確保したい」と語った。

青森県に新規開設の方針を伝えた全日空幹部は、採算ラインは利用率60%とし、「需要が十分にあると判断した」と述べた。

(北海道新聞)12/26

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/512291.html> (-> <http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/512291.html>)

(河北新報)12/27

<http://www.kahoku.co.jp/news/2013/12/20131227t22013.htm> (->

<http://www.kahoku.co.jp/news/2013/12/20131227t22013.htm>)

ユナイテッド航空、新潟—グアム線、4-7月運休

ユナイテッド航空は、新潟—グアム線(週2便)を来年4月1日から7月18日まで一時運休することが25日、分かった。この時季の運休は2年連続で3回目。同社によると、特にこの時季の利用が落ち込んでいるためという。

県によると、同路線の利用者は、12年度の利用者は1万4410人で、直近で多かった07年度の1万9836人から3割減った。ユナイテッド航空広報部は「地元と協議しながらマーケットを開拓し、通年運航を目指したい」としている。

(新潟日報)12/26

<http://www.niigata-nippo.co.jp/news/politics/20131226086264.html> (-> <http://www.niigata-nippo.co.jp/news/politics/20131226086264.html>)

成田空港、11月、国際線利用者数、前年比6%増

成田空港は25日、11月の空港運用状況を発表した。それによると、国際線旅客数は前年比6%増の242万8608人だった。このうち、外国人旅客数は27%増の72万3579人、通過客は5%減の42万9034人だった。

方面別では、中国が前年の反動もあり24%増と増加したほか、台湾、香港、中東を含むアジアも2桁増で推移。太平洋、欧州も前年を上回った。一方、グアムは17%減と2桁減少。韓国は9%減、オセアニアは2%減だった。

国内線は旅客数が19%増の38万8247人、発着回数は4%増の3488回で、11月単月として過去最高を記録した。

(トラベルビジョン)12/26

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=60063> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=60063>)

(NAAプレスリリース)12/25

<http://www.naa.jp/jp/press/pdf/20131226-unity.pdf> (-> <http://www.naa.jp/jp/press/pdf/20131226-unity.pdf>)

タイガー・エアウェイズ(LCC)、クラーク—成田線就航を計画

(NNA ASIAによると)

シンガポール系格安航空会社(LCC)タイガー・エアウェイズが40%を出資するタイガーエア・フィリピンはこのほど、来年第2四半期(4~6月)をめどにクラーク~成田線の就航などを計画していると明らかにした。実現した場合、同社にとって初の日本への乗り入れとなる。26日付ビジネスワールドなどが伝えた。

オリーブ・ラモス社長兼最高経営責任者(CEO)は民間航空委員会(CAB)から週7便の運航許可を取得したと話した上で、同路線の他に、クラーク~大阪線やマニラ~大阪線、セブ~成田線、カリボ(ボラカイ島)~成田線など計7路線を候補に挙げていると説明。中でもクラーク~成田線とカリボ~成田線を優先的に就航したいと述べた。

タイガーエアは海外では香港など3都市、国内では6都市に就航。先には、来年に近・中距離向けにエアバス「A320」型機を3機調達すると発表した。同社は現在、エアバス機を5機保有している。

(NNA ASIA)12/27

<http://news.nna.jp/free/news/20131227php003A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20131227php003A.html>)

韓国、民間航空機登録数623機、昨年より5.6%増加

韓国国土交通部は26日、韓国で登録された民間航空機の機数が623機になったと発表した。

航空機の登録機数は昨年末(590機)より5.6%(33機)増加した。53機が新規登録され、売却などにより20機が抹消された。

国土交通部はこの傾向が続けば2020年には登録航空機が1000機を超えると予想した。

(朝鮮日報)12/26

http://www.chosunonline.com/site/data/html_dir/2013/12/26/2013122600432.html (->

http://www.chosunonline.com/site/data/html_dir/2013/12/26/2013122600432.html)

竹中工務店、チャンギ空港、新ターミナル建設受注

シンガポールのチャンギ・エアポート・グループは26日、チャンギ国際空港の新ターミナルの建設を竹中工務店に発注したと発表した。契約額は9億8500万シンガポールドル(7億7645万米ドル)。2014年3月までに着工し、17年の完成を目指す。

第4ターミナルは、格安航空会社(LCC)など主にアジア域内の便に使われる予定。年間1600万人の利用者を見込んでいる。

(ロイター)12/26

<http://jp.reuters.com/article/businessNews/idJPTYE9BP04120131226> (->

<http://jp.reuters.com/article/businessNews/idJPTYE9BP04120131226>)

(日経)12/26

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM2604L_W3A221C1FF1000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM2604L_W3A221C1FF1000/)